

1 ホールについて

主な意見

- ・マルチホールは用途の自由度が高く、多様な使い方が想定されていた。
- ・公演時だけでなく日常的に人が滞在することを想定し、もぎりは可動式の仕切りを使用することで、専用空間を設けずに共用空間を広く確保している。

2 小規模諸室について

有識者からの説明

- ・苫小牧市民文化ホールでは、常設の託児サービスはなく、必要に応じ主催者が保育士等を手配する運用になっている。
- ・市内の託児事業者の紹介は可能だが、手配は主催者が行う。

主な意見

- ・練習利用時やイベント参加時に子どもを預けられる場所があると、施設を利用しやすく、入口付近への設置を望ましいと感じた。
- ・昨年度、作成されたイメージ模型と重なる部分もあり、今後旭川において新文化ホールの姿を具現化していくにあたって参考にすべき部分が多くあるように感じた。
- ・各活動室にそれぞれ特徴があり、利用方法の幅が広いと感じた。
- ・日本では公演時に子どもを預ける文化が十分定着していないとのことであったが、建物を建てて終わりではなく、利用者と運営主体が共に育っていくような運用が重要だと感じた。
- ・将来的に託児室に子どもを預ける文化が根付く可能性まで見据えた、公共施設の運営の仕方を考えられると良い。

3 共用空間について

【エントランス・アプローチ】

主な意見

- ・回廊のような構成で現在位置が分かりにくい一方、空間を回遊する楽しさが感じられた。
- ・館内に入るとネオンサインのような諸室の案内表示が分かりやすく、目的の場所を把握しやすかった。
- ・ガラス張りの壁面を通して室内の活動が共用空間からも見え、にぎわいや利用状況が伝わり「利用してみたい」と感じる雰囲気だった。
- ・開口部の工夫により、空間の広がりを感じられるづくりだった。
- ・駅からホールまで看板による案内があったが、建物のどこに入口があるのか分かりにくかった。
- ・出入口を一か所に限定せず、屋外とのつながりを意識し、複数の出入口を設けている事例もある。

【オープンスペース】

主な意見

- ・ホワイエだけでなく館内各所に椅子やテーブルが配置され、ゆとりある滞在空間となっていた。
- ・共用スペースに人が集まり交流している様子が印象的で、旭川市の新ホールでも余白空間を有効活用することの重要性を感じた。
- ・従来のホールにおける重厚な印象と異なり、ボルダリングで遊ぶ子供や市民の普段利用の様子から、カジュアルで親しみやすく市民が日常的に利用できる施設だと感じた。
- ・適度な死角や段差等により程よく視線が遮られて、居心地の良い共用空間が形成されている。